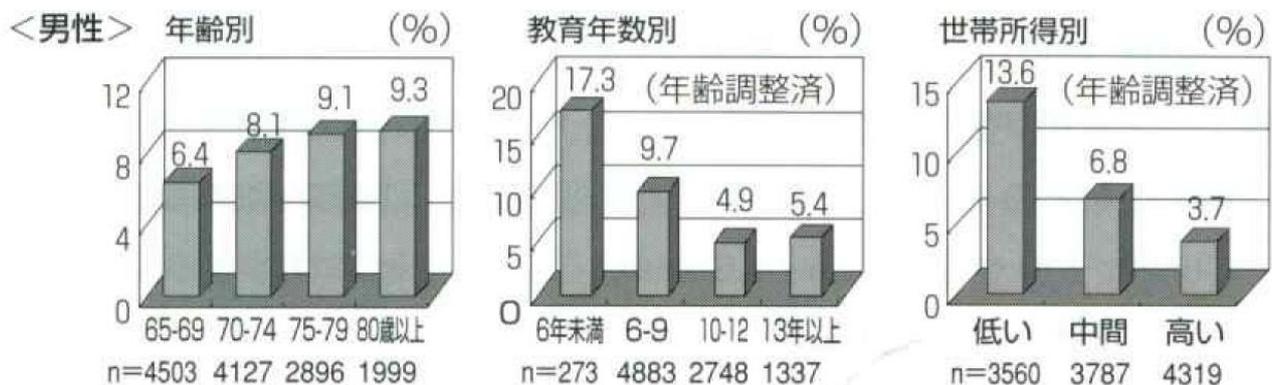


総合型選抜 2025 年度過去問題 看護学科

I 次の文、グラフを読み、あとの問いに答えなさい。

調査対象は AGES(Aichi Gerontological Evaluation Study; 愛知老年学的評価研究) プロジェクトデータの 32,891 人である。抑うつの評価には、自記式調査票 GDS(Geriatric Depression Scale)15 項目版を用いた。10 点以上をうつ状態とみなした。年齢区分は、65～69 歳、70～74 歳、75～79 歳、80 歳以上、教育年数は 6 年未満、6～9 年、10～12 年、13 年以上、所得は、税込み世帯年収で、低所得群:200 万円未満、中所得群:200～400 万円、高所得群:400 万円以上に分けた。— 略 —

うつ状態 (GDS \geq 10) の分布



(出典: 近藤克則:健康格差社会—何が心と健康を蝕むのか. 医学書院:22,2005)

問 上記の調査結果のグラフを読み取り、教育年数や経済状態等の社会的因子がうつ状態に影響を与えていることを 200 字以内で説明しなさい (字数には句読点を含む)。その際、適宜、数値を用いて具体的に述べなさい。

II 次の文章を読み、あとの問いに答えなさい。

— 略 —

低所得者ほど生活習慣リスクを抱えている。それが続くと、低所得者ほど生活習慣病にかかりやすくなる。医療費の負担に加えて、疾病による失職の恐れも低所得者ほど大きい。それによる貧困と疾病の負のスパイラルは、日本社会に大きな悪影響を与えるであろう。

なぜ、低所得者ほど生活習慣リスクが多いのであろうか? 筆者は以下の 3 つの要因を考えている。

第 1 に、低所得者では、健康に良いとされる習慣 (スポーツなど) や、食事 (新鮮な野菜の摂取など) を実践するためのお金も時間も限られているからであろう (ゆとり格差)。

第 2 に、健康づくりは将来に向けた先行投資 (たとえばたばこにより生じる疾病を予防するために禁煙する) という面がある一方、雇用や収入が不安定な状況では将来のことまで考える気になれないかもしれない (希望格差)

第 3 に、健康に関する適切な情報を入手し、それを実地に生かすというスキル (技能) も、学歴や所得で異なるであろう (リテラシー=知識=格差)。

これまでの生活習慣病対策 (健康づくり) は、適切な情報を与えることにより、個人の自覚を促して、個人の努力 (行動変容) を支援するものであった。しかし、経済格差が健康格差にリンクし

ている現在、従来通りの健康づくりを続けたのでは、ゆとりも希望もリテラシーも全てある富める者はますます健康になり、貧しい者はますます不健康になり、格差は広がる一方ではないか。

では何を変えるべきか？ 変えるべきは、社会環境なのである。この考えは、1980年代に提唱されたヘルス・プロモーション理論に由来する。その要点は「個人に対する健康行動の啓発も重要であるが、それ以上に社会環境をどのように整えるかを重視すべきである」という世界保健機関（WHO）のオタワ憲章に示されている。

社会環境が個々人の行動や健康に影響を及ぼしていることについて、例をあげよう。厚労省「平成22年（10年）国民健康・栄養調査」によると、都道府県別で成人男性の歩数が最も多いのは兵庫県で、東京都、神奈川県、奈良県、千葉県と続く。最も少ないのは鳥取県で、青森県、新潟県、和歌山県、秋田県と続く。兵庫県と鳥取県との間で2000歩以上の差がある。この差は、個々人の健康意識や運動習慣の違いで説明できるであろうか？ — 略 —

歩けば、高血圧やメタボも予防され、脳梗塞や心筋梗塞、さらには認知症まで予防される。歩行がビルトインされた社会環境で暮らすことのメリットは、想像以上に大きい。

— 略 —

以上をまとめると、個々人の生活習慣は自分で決めるよりも、社会環境で決まる部分の方が大きい。ならば、人々を健康にするような社会を創ろうではないか。

社会環境を変えれば、健康格差も是正されるであろう。なぜなら、社会環境は富める者にも貧しい者にも同様に働くので、格差の連鎖を断ち切る作用があるからである。

目指すは「老いも若きも、富める者も貧しい者も、そこに暮らすだけで誰もが知らず知らずに健康になれる社会」である。もちろん、このような社会はまだ存在しない。

— 略 —

（出典：健康格差を考える（下）辻一郎・東北大学教授—経済格差と連動性強まる、生活習慣改善、社会で誘導（経済教室）

2018年1月30日 日本経済新聞 ただし、文章の一部を省略している）

問1 下線部分の後に、社会環境が個々人の行動に影響を及ぼしていることに関しての考えが記載されていたが省略した。兵庫県と鳥取県で歩数の差ができていた社会環境について考え、100字以内で述べなさい（字数には句読点を含む）。

問2 筆者が考える低所得者ほど生活習慣リスクが多い3つの要因を踏まえて、「老いも若きも、富める者も貧しい者も、そこに暮らすだけで誰もが知らず知らずに健康になれる社会」を作っていくためにできることについて、あなたの考えを500字以内で述べなさい（字数には句読点を含む）。